

U.S. Indicators

発表日: 2024年2月26日(月)

米国 13 カ月連続で拡大を示す水準維持(2月PMI速報)

～製造業の加速もサービス業の減速により前月比では低下～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:050-5474-7493)

24年2月のS&Pグローバル米国総合購買担当者指数(PMI)は、51.4(前月52.0)と前月比0.6%ポイント低下し、市場予想の51.8(筆者予想51.8)を下回った。ただし、拡大縮小の分岐点である50を13カ月連続で上回っており、2月総合PMIは、同統計調査対象企業活動、民間需要の拡大ペースの小幅鈍化を示している。

製造業は、国内需要の拡大、在庫調整の進展による新規受注、生産の拡大ペース加速を受け、51.5(前月50.7)と前月比0.8%ポイント上昇し、拡大ペース加速を示唆した。一方、サービス業は、51.3(前月52.5)と前月比1.2%ポイント低下し、拡大ペース鈍化を示しているものの、内外での人の移動の活発化による需要の強まりを背景に13カ月連続で拡大縮小の分岐点である50を上回った。

総合新規受注は、製造業の上昇にもかかわらず、サービス業の低下によって、51.3(前月52.6)と低下し、需要の拡大ペース鈍化を示した。総合雇用は51.0(前月51.3)と小幅低下し、雇用の増加ペース鈍化を示した。製造業が51.9(前月50.2)と上昇した一方、サービス業がコスト削減、ミスマッチを背景に50.8(前月51.5)と低下した。

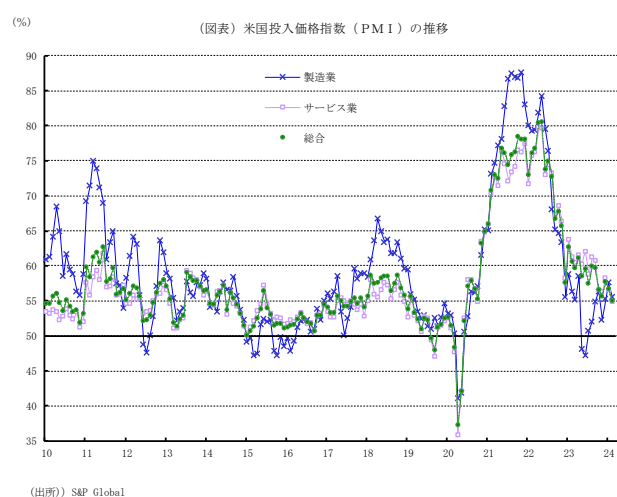
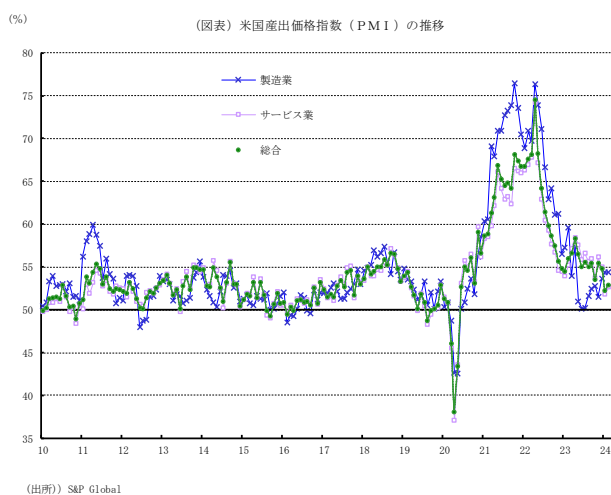
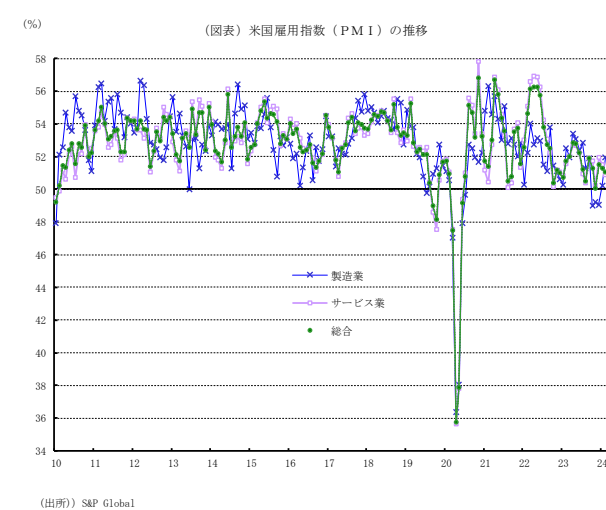
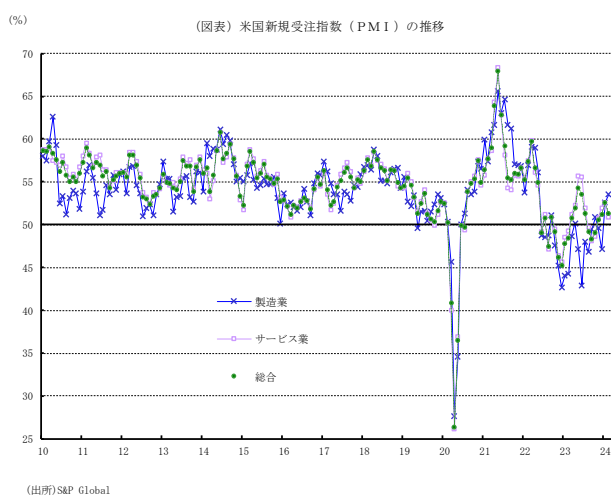
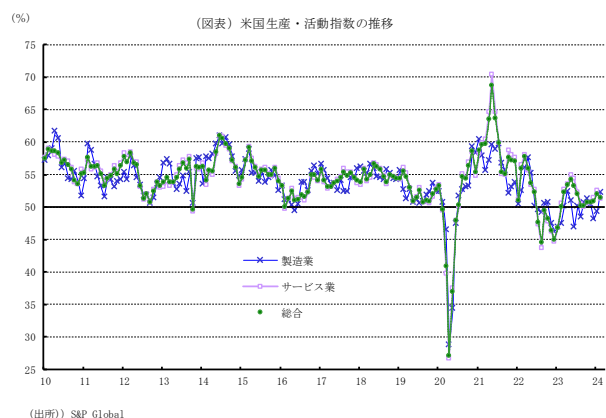
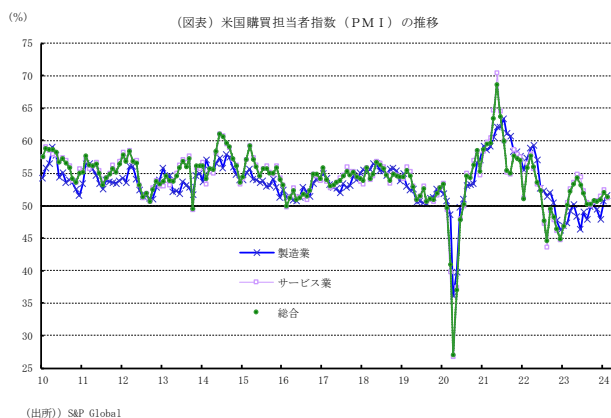
インフレ関連では、総合投入価格指数が低下した一方、総合産出価格指数が上昇しており、インフレ圧力の鈍い低下傾向が示唆された。製造業では、投入価格指数が55.6(前月57.6)と低下したが、産出価格指数が54.4(前月54.4)と変わらずとなり、財価格の下げ渋りを示した。一方、サービス業では、投入価格指数が54.9(前月56.8)と低下したものの、産出価格指数が52.7(前月51.8)と上昇し、サービス価格の上昇ペースの再加速を示した。

製造業では、新規受注が53.5(前月52.6)、生産が52.3(前月49.3)、雇用が51.9(前月50.2)、在庫が51.3(前月48.4)と上昇した。寄与度では、入荷遅延が前月比▲0.83%ポイントの押し下げ寄与となった一方、生産が前月比+0.73%ポイント、雇用が前月比+0.35%ポイント、在庫が前月比+0.29%ポイント、新規受注が前月比+0.26%ポイントの押し上げ寄与となった。

サービス業では、活動指数が51.3(前月52.5)と低下した。観光・余暇需要が強まる一方、信用・金融状況の引き締め等による影響でサービス業の活動が鈍化した。また、新規受注が50.9(前月52.6)と低下しており、目先需要の鈍化が続くことを示した。ただし、「将来の活動指数」が66.9(前月68.7)と低下したが高い水準を維持しており、サービス関連企業は先行きに対して楽観的な見方を維持している。

総合PMIは、24年1-3月期(1、2月平均)に51.7と23年10-12月期の50.8から上昇しており、24年入り後の米民間需要の拡大ペース加速を示唆している。製造業が51.1(10-12月期49.1)と大幅に上昇したほか、サービス業が51.9(10-12月期50.9)と上昇した。





本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。